

2026年1月19日

各 位

会 社 名 ブライトパス・バイオ株式会社
代表者名 代表取締役社長 永井健一
(コード番号: 4594 東証グロース)
問合せ先 管理部長 白石直織
(irpr@brightpathbio.com)

**再発・進行頭頸部がん患者を対象とするiPS-NKT細胞療法の第1相臨床試験の
研究論文掲載についてのお知らせ**

この度、当社の共同研究先の千葉大学医学部付属病院及び理化学研究所生命医科学研究センターが実施した「再発・進行頭頸部がん患者を対象としたiPS-NKT細胞動注療法に関する第1相医師主導治験(First in human)試験」（以下「本試験」）の研究成果をまとめた論文の完全版（以下「本論文」）が、米国の学術誌「Nature Communications」2025年12月30日版に掲載され、本掲載に際して2026年1月16日（金）に千葉大学医学部付属病院の本橋新一郎教授および飯沼智久講師より本論文の内容について記者会見が為されましたので、お知らせいたします。

タイトル: Allogeneic iPSC-derived iNKT cells in recurrent head and neck cancer: a phase 1 trial
著者: Tomohisa Iinuma, Tomoya Kurokawa, Takahiro Aoki, Atsushi Onodera, Tominaga Fukazawa, Daisuke Yamada, Genta Kitahara, Momoko Okoshi, Munechika Yamaguchi, Hiroko Okura, Satoko Sasaki, Yoshie Sasako, Sachiko Kira, Jafar Sharif, Yukio Tsuchiyama, Midori Kobayashi, Norihiko Kobayashi, Takuro Horikoshi, Yosuke Inaba, Hideki Hanaoka, Yoshitaka Okamoto, Toyoyuki Hanazawa, Haruhiko Koseki, Shinichiro Motohashi
掲載誌: Nature Communications
DOI: 10.1038/s41467-025-66801-w

詳細は、千葉大学医学部付属病院の報道発表資料（外部サイト）をご参照下さい。

https://www.ho.chiba-u.ac.jp/hosp/assets/dl/about/topics_260119.pdf

本試験では、世界で初めて、iPS細胞から作製したNKT細胞（iPS-NKT細胞）が、標準治療後または標準治療の適応とならない再発・進行頭頸部がん患者（10名）に投与されました。

本論文が報告する臨床データ解析結果には、以下が含まれています。

- CT画像評価を実施した8名のうち、2名の患者で特に腫瘍増大抑制効果が認められたこと
- この2名においては、体内で、他家iPS-NKT細胞が活性化し産生するサイトカインの影響で、患者自身

- の細胞傷害性T細胞が、メモリー型(記憶持ち)、エフェクター型(即戦力)ともに増加している現象が確認できたこと
- この患者自身のT細胞の増加においては、特定の標的抗原を認識できる細胞傷害性T細胞が選ばれて増え、免疫反応が増幅される仕組み(クローン性拡大)が認められたこと

本論文で報告されたこれらの臨床データは、当社が臨床試験開始に向けて準備を進める「新規他家CAR-T細胞プラットフォーム」のプロトタイプ製品BP2202 (iPS細胞由来BCMA CAR-NKT)に実装させたいiNKT細胞の本源的機能を示唆するものであります。

以上

【問い合わせ先】
ブライトパス・バイオ株式会社 管理部
E-mail: irpr@brightpathbio.com
<https://www.brightpathbio.com>